

## お知らせ

“Trans. ISIJ”から“ISIJ International”へ  
—国際的な論文誌への脱皮—

1989年1月より日本鉄鋼協会欧文誌の誌名が変更されます。“Transactions of The Iron and Steel Institute of Japan (Trans. ISIJ)”から、“ISIJ International”へです。もちろん、変わるのは誌名だけではありません。表紙も変わりますし、目次表示も変わります。字体も変わります。もし何も知らずに新しい雑誌を手にした方がありましたら、これがTrans. ISIJの後継誌かと一瞬戸惑われるようなものになるはずですが、変わるのはこのような外見だけでなく、外から見えない部分も大きく変わります。むしろこちらの方が大事です。まず編集委員会内にInternational Advisory Boardを置き、欧米やNIES各国の著名な研究者にメンバーになっていただき、各国からの論文の勧誘や、レビュー記事の執筆、あるいは論文審査などを積極的にやっていたこうと考えております。またこのような雑誌の性格の変化につれて投稿規程の改訂、論文審査のフォーマットの見直しなども行っております。

このような変化は一言でいえば、これまで日本鉄鋼協会の欧文会誌（会報）であったものから、日本鉄鋼協会が出版する国際的に開かれた欧文誌になるということです。これが日本鉄鋼協会の会誌であることに変わりはありませんが、それを世界に開かれた雑誌として世界中から自由な投稿を積極的に募り、最先端、第一級の論文や解説が掲載される国際的に権威ある雑誌にしようということです。このような権威ある雑誌をもつということは、日本の鉄鋼技術及びそれを支える研究が世界最高にある現在、日本に課せられた責務であり、日本鉄鋼協会の欧文誌の歴史をみれば、今回の変化がその流れの中の最終仕上げに当たることがわかるとおもいます。

本協会の欧文誌は、“Tetsu-to-Hagané Abstract”と題して、昭和28年3月にその第1号（1951年版、年1回発行）が刊行されました。これは「鉄と鋼」の優秀論文を広く海外に紹介するとともに、我が国の鉄鋼事情の理解に資することを目的としておりました。この刊行形態は第10号（1960年版）まで継続しましたが、年1回の発行では「鉄と鋼」の内容を十分に摘要することは不可能であり、さらにその後における我が国の鉄鋼業の急

激な発展の実態を広く海外に紹介宣伝する必要に迫られたため、従来の“Abstract”を拡大強化して、1961年版より“Tetsu-to-Hagané Overseas”として年4回発行のこととし、学術、技術上の研究論文のほか、広く我が国鉄鋼業の現状を海外に紹介する資料を含むものとなりました。その後、より一層我が国の鉄鋼業に関する代表的な学術・技術誌に発展させるべく、昭和41年1月から、巻号は継続し、Vol. 6, No. 1より現在の“Transactions of The Iron and Steel Institute of Japan”と名称が変更されるとともに、発行回数も年6回に増刊されました。このときの改訂により初めて「鉄と鋼」に掲載された論文の英訳だけでなく、欧文誌へのオリジナル論文の投稿ができるようになりました。更に、昭和50年1月（Vol. 15, No. 1）からは月刊誌として刊行されるようになり、現在に至っております。この間、Trans. ISIJへのオリジナル論文の投稿は急速に増加し、海外からの投稿も増え、現在ではオリジナル論文が80%以上（約15%は海外からの投稿）となっております。

このように本協会の欧文誌は、「鉄と鋼」の英訳版、その海外紹介版から出発して、しだいに独自のオリジナル論文を掲載し、しかも海外に向かつて開かれた雑誌としての機能を強めて参りましたが、今回の変化はそれをさらに一歩進めるものです。すなわち、日本鉄鋼協会の会誌として、「鉄と鋼」とは姉妹関係にあり、論文の相互乗り入れは可能ですが、原則としてはオリジナル論文を掲載する国際的に第一級の論文誌になろうとするものです。

なお、この機会にこの会誌のScopeも広げることにしております。すでに本協会には、講演発表の分類に「萌芽境界領域」という分類があり、編集委員会の中に「Materials Processing 専門委員会」が設置され、材料の新分野への展開を図りつつあります。これらに対応して今回、“ISIJ International”の定義も“an international and interdisciplinary publication devoted to the science and technology of materials and processes”とし、ScopeとしてIron and Steelにcoreを置くが、Materials and Processesの科学技術のすべてを含むと

定めることにしました。

さて、ここで誌名として“ISIJ International”が選ばれたいきさつを簡単に述べておきます。基本的には欧文誌分科会の中で議論され、理事会で了承された訳ですが、分科会の中で最初 10 名称が提案されました。それらの提案を見てみますと、Iron and Steel を含むものが一つもなく、すべて Materials and Process (ing) に広げられておりました。この中で他誌の類似の名称の中に埋没せず、国際的広がりを目指していることがわかり、スッキリした名称として“ISIJ International”が選ばれました。この名称では何の雑誌かわからないという意見もありましたが、“ISIJ”という略号を“AIME”や“BISI”などと同様に、略号だけで世界中に通用させたいという意気込みも込められて決めました。

以上述べたような方向に雑誌を変えていこうとしますと、掲載記事の内容もそれに応じて検討していかなければなりません。まず、論文は(1) Regular paper, (2) Review, (3) Communication, (4) Note の 4 分類とし、これまであつた Regular paper の中の Research Article と Technical Report の区別を無くしました。これはこれら両者の論文としての性格の差が実効上有効に作用せず、実際には Research Article の少し程度の低いものを Technical Report として掲載するという傾向があつたからです。従つて今回の Regular paper の中には両者が含まれ、originality と usefulness で判断されます。そのほか現在の Research Note は Communication へ、Letter to Editor は Note にほぼ対応しますが、細かい点で変化もありますので、より詳しくは新しい投稿規程

(現在作成中)を御参照下さい。

このほか現在の Trans. ISIJ には、New Technology, ISIJ Activity Report, Special Lecture, 講演大会プログラム、総会報告、講演大会の announcement など多くの記事が掲載されておりますが、これらの記事については新しい雑誌の性格に合うかどうか個々に見直していきたいと思つております。一般論としては会報的色彩の強い記事は「鉄と鋼」の方におまかせすることになるでしょう。

以上、現在計画している“ISIJ International”への変化の理念とそれに伴う投稿規程の改訂などについて述べてきましたが、このような雑誌の性格の変化は誌名を変えたから、また投稿規程を変えたからといつて達成できるものではありません。国際的な論文誌に脱皮するためには、協会としての長い努力の積み重ねとそれに基づく実績が必要です。さらに我々日本人の場合、本当に International になるためには英語という大きな障害があり、それを克服しなければなりません。ドイツの鉄鋼協会もそのための努力をしております。伝統ある“Archiv für des Eisenhüttenwesen”を“Steel Research”と誌名変更しました。我々はそれよりもつと大きな努力を払わなければならないでしょう。会員皆様方の御協力をお願いいたします。よい研究論文ができたなら、まず“ISIJ International”へ投稿することを習慣付けて下さい。

皆様のご投稿をお待ちしております。

(日本鉄鋼協会欧文誌分科会主査 新居和嘉)  
科学技術庁金属材料技術研究所